

平成 29 年度 県民の環境活動支援事業

ちば里山カレッジ「第 1 回フォローアップ研修」実施報告書 (1)

特定非営利活動法人ちば里山センター

題 名	ちば里山カレッジ「第 1 回フォローアップ研修」 講義：「チェーンソー入門講座・安全講習」 実習：「チェーンソーの整備と目立て・玉切り」
日 時	平成 29 年 7 月 1 日 (土) 10:15~16:00
会 場	千葉県林業サービスセンター 研修室
出席者	受講生 32 名 (17 市町) ・講師 2 名 ・スタッフ 1 名
内 容	10:15~12:00 講義：「チェーンソー入門講座・安全講習」 講師：千葉県森林組合 南部支所 事業課長 安全管理指導専門家 木村 正敏 13:00~15:00 「チェーンソーの整備と目立て・玉切り」 講師：千葉県森林組合 南部支所 事業課長 安全管理指導専門家 木村 正敏 15:00~16:00 質疑 「チェーンソーのメンテナンス」
報 告	<ul style="list-style-type: none"> ・チェーンソー入門講座第 1 回目は県内 17 市町から 32 名が参加して始まった。 ・講義では、チェーンソー初心者及び経験者向けに、林業労働災害の死亡者数の推移をレビューした。林業労働災害のうち、伐採作業での死亡災害の割合が突出して多く、チェーンソー作業中の事故が多いこと、年齢別では 50 代から 70 代が最も多く、林業労働の実態が現われていることが分かった。 ・労働災害防止策として「慣れは怖い、基本を大切に」のスローガンを旨とし、「危険行為をやらない、やらせない」という強い気持ちを持つことだと木村講師は強調した。 ・保護帽、防振手袋、イヤーマップル、防護ズボンなどの着用の義務付けについては、チェーンソーを扱う際の労働災害防止のための規程（「林業・木材製造業労働災害防止規程」平成 27 年 10 月適用）が改正されたと紹介し、午後の実習で装着が告げられた。 ・木村講師は実際に起こったチェーンソー事故の例として、ルーティンワークが崩れた時に起きやすいことを紹介した。 ・慣れ、思い込み、うっかりなど気持ちの持ちようで起こりやすい事故の例も紹介し、朝の安全点検、段取り・割り振りといったコミュニケーションが事故の軽減に寄与している様子をビデオでも学習した。 ・「事故・ヒヤリハット報告書」を活用して、行動のチェック、翌日以降の活動に反映していると説明した。 ・千葉県林業サービスセンター構内を使って行われたチェーンソー点検整備実習は、チェーンソーの清掃・目立てから入った。摩耗の激しいものはソーチェーンを交換した。里山団体では目立てのための専門家を定めることで不具合が避けられるとアドバイスがあった。 ・清掃を終え、ソーチェーンを装着し、エンジンがかかった。6 班に分かれた夫々からチェーンソーのうなりが上がり、一人ずつ交代にチャップス、ヘルメットを装着し、スターターを担当した。次にチェーンソーが丸太にかかり、玉切りの音が響いた。切りくずが飛び散り、円盤が次々に積み上がった。 ・チェーンソー点検整備の実習を終え、質問コーナーでは、ソーチェーンの研磨角度について、立木伐採研修の要望など出され、受講生の積極性が表われた研修となった。

添付資料（写真）



伊藤副理事長（左）と木村正敏講師（右）



チャップスの装着



チェーンソー事故の例を示す



追い口の入れ方を説明



受講生の真剣なまなざし



実技を始めます



ソーチェーン（新旧）



交換用ソーチェーン



目立てはこのように



玉切り始まる



防護具 決まりました！



受講生の皆さん